

[研究会記事] 歴史地震研究会だより 2020年5月～2021年4月

歴史地震研究会幹事会

1. 前号以降の歴史地震研究会の活動(2020年5月～2021年4月)と今後の予定

2020年

- 6月4日(金) 2019年度第5回幹事会(Web会議)
- 8月4日(火) 2020年度第1回幹事会(Web会議)
- 9月26日(土)～29日(火) 第37回歴史地震研究会(オンライン)
 - 26日 研発表会
 - 27日 研発表会
 - 28日 研発表会・総会
- 9月8日(火) 2020年度第2回幹事会(Web会議)
- 10月23日(金) 2020年度第3回幹事会(Web会議)
- 12月25日(金) 2020年度第4回幹事会(Web会議)

2020年

- 4月27日(火) 2020年度第5回幹事会(Web会議)
- 6月18日(金) 2020年度第6回幹事会(Web会議)
- 7月 2020年度第7回幹事会(Web会議)=予定
- 9月2日(木)～5日(日) 第38回歴史地震研究会(苫小牧市文化交流センターアイビー・プラザ)=予定

2. 第37回歴史地震研究会 総会議事録

日時:2020年9月28日(月) 14:20～15:40

於:オンライン開催

■定足数確認

歴史地震研究会会則第20条により、総会は会員の10分の1の実出席を要すると定められている。現在の会員数266名、総会参加会員数は40名、委任状提出16名で定足数を満たし、総会は成立する。(大邑総務委員長) ※一号議案の途中に3名入場(43名) 四号議案の途中で1名退場(42名)

■松浦律子会長挨拶

■議長選出

大邑総務委員長より佐竹健治会員を議長に推薦。佐竹健治会員が議長に選出され、ここからは議長が進行を務める。

■佐竹議長挨拶

第一号議案 2019年度事業報告および決算報告

1. 2019年度事業報告

(1) 研究成果発表会および講演会

①第36回歴史地震研究会(徳島大会)の開催について(代理:大邑総務委員長)

総会資料第一号議案1.(1)①により説明。

②第37回歴史地震研究会(伊賀大会)の開催準備について(盆野行事委員長)

総会資料第一号議案1.(1)②により説明。

(2) 会誌の刊行について(行谷編集出版委員長)

『歴史地震』第35号を2019年7月末に発行したことについて総会資料第一号議案1.(2)により説明。

(3) 広報活動について(加納広報委員長)

総会資料第一号議案1.(3)により以下の事項について説明した。

①新たにFlashを用いないホームページを立ち上げ運用中である。15号16号34号PDF、議事録、大会案内などを掲載した。

②大会の周知

③メーリングリストの管理

(4) その他(大邑潤三総務委員長)

研究会の各事業を行うために付随する活動として、大会中の総会1回と幹事会5回を行ったことを総会資料第一号議案1.(5)により説明。

2. 2018 年度決算報告

(1)2019 年度決算報告について（諸井孝文財政委員長）

総会資料第一号議案 2 および説明資料の 2019 年度会計監査報告書および会員の現況及び会費受取状況により、2019 年度の収入と支出、大分大会の収入と支出を報告。

歴史地震研究会 2019年度 決算報告

項目		予算額	決算額	増減	内訳
収入	2019年度会費	988,000	984,000	▲ 4,000	4000円 × 246名
	2018年度以前会費	0	62,000	62,000	4000円 × 11名、3000円 × 6名
	2020年度会費	0	88,000	88,000	4000円 × 22名
	2021年度会費	0	4,000	4,000	4000円 × 1名
	会誌口絵代・超過頁代	0	118,000	118,000	23000円 × 5、1500円 × 2
	会誌・講演要旨バックナンバー代	0	17,110	17,110	会誌11部、講演要旨1部
	徳島大会剰余金	0	160,511	160,511	
	寄付金	0	10,000	10,000	小磯修一会員
	前年度繰越	2,228,499	2,228,499	0	
合計	3,216,499	3,672,120	455,621		

支出	2019年度徳島大会関係費	50,000	0	▲ 50,000	剰余金のみ
	2020年度以降大会準備費	50,000	0	▲ 50,000	
	歴史地震35号印刷・発送代	656,000	775,390	119,390	450部、振込送料440円込
	同編集費	25,000	10,000	▲ 15,000	編集補助謝金
	HP管理費	20,000	21,440	1,440	振込送料220円込
	会議費	200,000	48,492	▲ 151,508	交通費・宿泊費
	功績賞関連費	100,000	55,596	▲ 44,404	振込送料216円込
	雑費（通信費・文房具購入など）	30,000	11,567	▲ 18,433	資料送付料・切手代・他
	合計	1,131,000	922,485	▲ 208,515	

次年度繰越金	2,085,499	2,749,635	664,136	
--------	-----------	-----------	---------	--

2019年徳島大会収支報告

項目		金額	内訳
収入	参加費（会員・他）	168,000	2000円 × 84名、会員・LOC・学生
	同上（非会員）	56,000	4000円 × 14名
	懇親会会費（一般）	325,000	5000円 × 65名
	同上（学生）	5,000	2500円 × 2名
	巡検参加費	148,000	4000円 × 37名
	徳島県観光協会助成金	300,000	
	合計	1,002,000	

支出	大会会場費	131,112	徳島大地域連携大ホール（振込送料432円込）
	大会会場駐車場代	6,696	阿波踊り連員用（振込送料216円込）
	予稿集印刷費	64,432	100部（振込送料432円込）
	懇親会費	272,632	3500円 × 60名 + 飲物代（振込送料432円込）
	阿波踊り出演料	100,432	阿波おどりうずき連（振込送料432円込）
	公開講演会講師謝金	20,000	牟岐町防災サークル、美波町立由岐小学校
	巡検代金	144,930	交通費・昼食代・保険料
	人形浄瑠璃観劇料	15,420	松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館
	巡検ガイド謝金	20,000	同上
	アルバイト代	60,000	10000円 × 3日 + 10000円 × 1.5日 × 2人
	文具代	2,909	公開講演会チラシ用紙
	雑費	2,926	控室用ジュース・お菓子
	合計	841,489	

収支差額	160,511	剰余金
------	---------	-----

(2)会計監査報告（中村監査役、植竹監査役）

2019 年度収支決算報告の監査を行い、予算の執行、帳簿、証票の整理等、正常かつ適正に処理されていることを確認した。

〈第一号議案について質疑〉

なし

(議長) 第一号議案 2019 年度事業計画および決算報告の承認

承認：43 非承認：0 保留：0 第一号議案を承認

第二号議案 会長選出

歴史地震研究会会則第 18 条第 2 項に基づき、幹事会の推薦を得て、現会長である松浦律子氏から歴史地震研究会会長に立候補の届け出があった。以上、報告する。(大邑総務委員長)

(議長) 松浦律子氏の次期会長就任の承認

承認：43 非承認：0 保留：0 松浦律子氏の会長就任を承認

第三号議案 監査役選出

歴史地震研究会会則第 18 条第 4 項に基づき、幹事会として現監査役である中村操氏および植竹富一氏を次期の監査役に推薦するとの届け出があった。以上、報告する。(大邑総務委員長)

(議長) 中村操氏と植竹富一氏の次期監査役就任の承認

承認：43 非承認：0 保留：0 中村操氏と植竹富一氏の監査役就任を承認

■新会長挨拶と役員指名

次期の松浦律子会長より挨拶。2020 年度の役員は、副会長に堀川晴央氏(留任)、幹事は総務委員長に大邑潤三氏(留任)、財政委員長に諸井孝文氏(留任)、広報委員長に加納靖之氏(留任)、行事委員長に西村裕一氏(新任)、編集出版委員長に行谷佑一氏(留任)を指名する。各委員会の運営のために必要数の委員を追って指名する。

■各新幹事・監査役より挨拶

第四号議案 2020 年度事業計画および予算案

1. 2020 年度事業計画案

(1) 研究成果発表会および講演会

- ①第 37 回大会を伊賀市において開催予定であったが、感染症拡大により公開講演会、懇親会、巡検を中止し、研究発表会と総会をオンラインで実施。(大邑総務委員長)
- ②2021 年第 38 回大会を苫小牧市で開催するため準備を行う。(西村新行事委員長)
- ③2022 年第 39 回大会の大会候補地について候補地の選定、日程調整を行う。
(大邑総務委員長)

(2) 会誌の刊行(行谷編集出版委員長)

会誌『歴史地震』第 36 号を 2021 年 7 月末頃に発行予定であり、論文を募集する旨と体裁や締め切りについて、総会資料第四号議案 1.(2)により説明

(3) 広報活動(加納広報委員長)

ホームページと会員メーリングリストおよび musha の運営管理を引き続き行う旨、総会資料第四号議案 1.(3)により説明。

(4) 歴史地震研究に関する業績の表彰(大邑総務委員長)

歴史地震研究会功績賞の授賞対象者の選考を検討する旨、総会資料第四号議案 1.(4)により説明。

(5) その他(大邑総務委員長)

会の運営のため総会および年間 5 回程度の幹事会を開催する旨、総会資料第四号議案 1.(5)により説明。

2. 2020 年度予算案(諸井財政委員長)

総会資料第五号議案 2 歴史地震研究会 2020 年度予算案により 2020 年度予算について説明。

〈第四号議案について質疑〉

Q：大会に使用した Zoom の契約料は怎么样了のか。

A：本オンライン伊賀大会は東大の Zoom ライセンスを使用しており研究会として契約はしていない(東大では構成員が学会活動に自身に交付されている Zoom ライセンスを使用することを認めている)。今後、研究会としてライセンスを用意することになるかもしれないが、現在は予算案には入れていない。(加納広報委員長)

A：オンライン開催が決定した段階では、どの程度経費が必要になるか不明であったため 5 万円を計上した。結果的にはほぼ使われない可能性もある。(諸井財政委員長)

A：今回は予稿集の印刷もなかったため経費が抑えられた。(松浦会長)

Q：幹事会はオンラインで開催しているのか

A：7 月までの幹事会はオンラインで開催した

Q：予算案の会議費はほぼ旅費と考えてよいか

A：苫小牧市などに挨拶に赴く可能性もあるため計上してある

Q：『歴史地震』の編集について、査読者は各編集委員が選定し委員長も把握していないとの事だが特定の人に査読が集中する可能性はないのか。

A：どの論文が誰に査読されているかは基本的には編集出版委員長といえども把握せず、各編集委員のみがそれぞれの担当原稿の査読者を知ることによって査読者秘匿の原則を守っている。しかし、編集出版委員長のみ査読者の一覧は把握しているため重複はおこらない。

(議長) 第四号議案 2020 年度事業計画および予算案の承認

承認：42 非承認：0 保留：0 2020 年度事業計画および予算案を承認

■議長解任

■閉会

3. 幹事会議事録

2019 年度 第 5 回幹事会議事録

場所: Web 会議

日時: 2020 年 6 月 4 日(金) 17:00~20:20

出席者: 松浦(会長), 堀川(副会長), 諸井(財政), 盆野(行事), 加納(広報), 行谷(編集出版), 中村(監査), 植竹(監査), 大邑(総務)書記

1. 入退会者の承認及び 2019 年度会費の受取状況 (財政)

【資料 1】 1. 入退会者の承認及び 2019 年度会費の受取状況

- ✓ 入会者 4 名, 退会者 0 名, 休会申請者 0 名, 会員特典復活 0 名, 登録内容の変更 5 名
→入会者を承認
- ✓ 6 月 4 日現在の会員総数 281 名
- ✓ 2019 年度会費受取状況: 247 名 (88%) 未納者: 34 名
- ✓ 2019 年総会において会員特典停止の 2 名が 2018 年度会費を納入 ただし 2019 年度会費は未納

2. 2020 年伊賀大会の準備状況について (行事)

【資料 2】 第 37 回歴史地震研究会伊賀大会 準備状況③

【資料 3】 2020 年伊賀大会収支計画

【資料 4】 (別紙 2) 第 37 回歴史地震研究会 (伊賀大会) のお知らせ (第 3 報) (案)

【資料 5】 歴史地震研究会伊賀大会の開催について(感染症拡大による開催判断について)

- ✓ 後援申請は新型コロナの影響で遅れているが 6 月中には申請予定
- ✓ 公開講演会は前回提案より 30 分早く 12:30 開場とし開始を 13:30 とする
- ✓ 各講演のタイトルが確定 感染症の状況により辞退の可能性があるのでピンチヒッターとして伊賀市教育委員会文化財課長に依頼済
- ✓ 公開講演終了後に宇佐美会員からの特別講義(30 分程度)を開催
- ✓ 研究発表会 発表申込み: 50 件(口頭 28 件, どちらでも可 10 件, ポスター 12 件)
- ✓ そのうちポスター発表への申込みに高校生が 1 件
- ✓ プログラム案は別紙 2 の通りだが今年は感染症対策としてセッション終了ごとに休憩 15 分をはさみ換気等を行う予定
- ✓ 講演要旨集の印刷は地元印刷業者に依頼することを確認 8 月中旬頃までに原稿提出予定
- ✓ 現在の三重県における感染症対策の指針を確認
- ✓ 懇親会参加費は 6000 円で確定/キャンセルの場合は 8 月頭には連絡がほしいとの事
- ✓ 巡検コースのうち岩倉峡公園はバス降車場所から徒歩で移動することを決定
- ✓ 新規入会者の発表を承認
- ✓ 収支計画のうち感染症対策費を計上(マスク・消毒液・非接触型体温計・除菌クロス・フェイスシールド・衝立など)/講師謝礼を修正
- ✓ 感染症拡大による開催の判断について現状と対応(開催規模の縮小等)課題を資料 6 にて検討
→プログラムのうち筆頭が発表者でない場合星などを付ける必要があるので修正
→公開講演会を一般への公開ではなく会員のみ形にする方式でも良いのではないかと
→懇親会開催不可であれば巡検や公開講演会ほか研究発表会も開催してはいけないのではないかと

歴史地震研究会の社会的信用にも関わってくる問題である

- 他学会と違い規模が100名に達しないと思われ感染リスクが異なる
- 机80台を用意する予定で1人ずつ座れば距離は取れるほかその他対策をとれば開催は可能ではないか
- 完全にリスクが無くなるのを待っていたら数年は開催できなくなってしまう
- 他の同規模の集会なども参考にしてはどうか
- オンラインで開催される学会もあるが本研究会には適さないと思われる
- 懇親会と巡検を諦めても研究発表会はなるべく開催したい(学生の事もあり)
- 現在の状況が続くようであれば懇親会と巡検は中止の方向になるのではないかと
- 第3報には開催できない可能性を記載することを決定
- 巡検や懇親会も開催する方向で申込みを受付ける
- 講演要旨は通常通り7月末締め切りとし中止になった場合も要旨を公開する方向で決定
- 要旨の公開によって発表したとみなすか等の対応は中止された場合に判断する
- 特別講義への対応も今後の状況を見て判断
- 懇親会等が中止になった場合のホテルの対応(代金・送迎など)などは今後交渉
- ポスターセッションの形態(すべて口頭に振り替えなど)も直前までに検討
- 消毒作業等が煩雑になることが予想される(人員等)
- 受付係のリスクを低減させるために支払いなどを予め済ませておく(支払い)などの対応も検討
- 口頭発表時もマスク着用の方向/マイクを握る前に手指消毒/各自触った場所は自分で消毒など
- 高校生の参加については行事委員から学校の方針等を先生に確認することとする
- 現段階で開催の可否を判断するのは難しいので8月頭の幹事会で判断することを決定

3. 『歴史地震』の編集について(編集出版)

【資料6】3.「歴史地震」の編集について

【資料7】(別紙1)『歴史地震』35号受理原稿(2020年6月4日現在、講演要旨は除く)掲載順

【資料8】(別紙2)『歴史地震』の原稿訂正方法について

- ✓ 35号の編集状況(6月4日現在):論説13,資料5,報告5,訂正3,要旨46,315ページ(予定)
- ✓ 「報告」のうち1編について編集委員会の判断で6ページとなることを認める方針
- ✓ 要旨数は実際の数57件から受理原稿11編を引いた数
- ✓ 受理済み論文は別紙1,訂正原稿については別紙2の通り
- ✓ これまで原稿内容の訂正方法については定められておらず研究会のWebページに編集出版委員会の名義で訂正を掲載するなどの方法をとってきた
- ✓ 地震学会『地震』第2輯の訂正方法は1つの訂正を1つの論文として扱い掲載している
- ✓ 本研究会も著者からの申告により著者が訂正を行う方式としたい
 - 以前にも同様の方式で訂正を掲載した事があるので問題ない
- ✓ スケジュール:5月中旬著者校正/6月中旬著者校正を反映し印刷原稿確定・要旨著者校正・目次作成校正/6月26日入稿期限,7月頭初稿出しを最終チェック,7月29日会員と図書館へ出荷
- ✓ 発行部数は前幹事会で410部としたが,35号の著者から別途10部購入の申込みがすでにあった
 - 会費納入者数・未納者数などが前回から変化しているため410部は少ない430部でどうか
 - 著者に対して追加購入の希望をとる事を決定 430部+追加購入希望部数 で決定
- ✓ 功績賞の英訳について「the ○th Distinguished Contribution Award of the Society of Historical Earthquake Studies」で決定
- ✓ 「報告」カテゴリーの却下について次号以降下記のようにしたい
 - ・「論説」「資料」でリジェクトになった原稿を「報告」で掲載するとは積極的には著者に伝えない
 - ・「論説」「資料」でリジェクトになった著者が「報告」掲載を希望したとしてもその号に掲載できるか確約が持てないことはあらかじめ伝えておく。
 - ・現状「報告」は4頁以下が基本でそれを越えるには編集出版委員会が認める必要があるがこの規定はそのまま残す。
 - ・「報告」にはリジェクトできる規定がない。そこで編集規定変更を実施したい。
- 規定について主語を明確に記載する方が良い
- 規定の変更案については編集委員会ですらに検討し次回以降の幹事会で審議することとする

4. 2021年若小牧大会の開催について

【資料9】2021年若小牧大会について

- ✓ 現在新型コロナウイルスの影響で2月以降若小牧市側と対面で打ち合わせができない状況だが市は開催を検討してくれるとのこと
- ✓ 会場の下見についても自粛を迫られている状況で今後緩和されれば下見を行い会場のスペックや空き状況・

- 料金を確認の予定
 - 近年の会場費の相場について確認
- ✓ 日程について北海道胆振東部の地震の発生日が9月6日でありこの日が目安となる
- ✓ A案(4~7日)とB案(18~21日)および市案(11~14日)を市側と調整中であり他の防災講演会等との兼ね合いも加味して検討する
 - 第1候補としてA案・第2として市案で進めることとする
- ✓ 時間割について市側の要望として公開講演会を行うのであれば休日の午前中が良いとのことで下記の組み合わせで検討中
 - 1日目：午後から研究会開始 2日目：午前・市民講演会 午後：研究会、懇親会
 - 3日目：一日中研究会どこかで総会 4日目：巡検
- これをベースとして進めることを確認
- ✓ 公開講演会の後援等について希望する団体はあるか
 - 文化財担当の方や学校を巻き込みたいという場合は教育委員会などに後援(共催)を頼むとメリットが生じるが公開講演会の性格による(場合によって依頼すればよい)
 - 後援や共催をとると施設の使用料や広報・情報発信などの面でメリットが生じる場合もある
 - 講演会だけでなく研究会全体を後援(共催)してもらっても良いのではないか
 - 行政の防災担当なども協力すると良いのでは
- ✓ 伊賀大会で苫小牧大会の具体的な日時・場所を会員に連絡する必要がある
- ✓ 次回幹事会には次期行事委員長として西村会員に出席(Web)をお願いする方向で決定

5. 広報活動について(広報)

【資料10】(広報活動に関する報告)

- ✓ 研究会メンバーリストの登録・変更等を随時おこなっている
- ✓ ホームページの更新『歴史地震』15号・16号のPDFアップ/伊賀大会関係の申込みフォームなどを作成し掲載
- ✓ J-GROBALの新機能「出版社サイト」のURLを更新
- ✓ 今後17号のPDF掲載などを行う予定
- ✓ mushaの整理再登録・規定の改訂について時期をみて進める
 - 次回幹事会で規定の改訂案について議論することとする

6. 「研究会だより」原稿について

- ✓ 伊賀大会の第3報および投稿シートの変更を反映させ12日を目安に確定
- ✓ 過去の「研究会だより」をWebに掲載したほうが良い(掲載されていない号がある)

○次回幹事会は8月4日17時~開催の予定 (Web開催)

2020年度 第1回幹事会議事録

場所:Web会議

日時:2020年8月4日(火) 17:00~20:20

出席者:松浦(会長),堀川(副会長),諸井(財政),盆野(行事),加納(広報),行谷(編集出版),中村(監査),植竹(監査),西村(次期行事),大邑(総務)書記,

1. 2021年苫小牧大会について

【資料1】歴史地震研究会 2021年苫小牧大会

- ✓ これまで2回ほど苫小牧の市役所・博物館等で打ち合わせを行い好意的な感触を得ている
- ✓ 日程は9月第1週を予定しており,市の防災イベントとタイアップする形で研究会の市民講座を土曜日午後開催したい(北海道胆振東部地震3周年にあたる)
- ✓ 日程は①2日~5日,もしくは②3日~6日を考えている.最終日の巡検をいつ行うかが課題
 - 5日(日曜)であれば巡検に参加しやすい事,交通混雑傾向を考慮し②の日程で進めることを決定
- ✓ 会場は美術博物館,市民会館,文化交流センター(アイビー・プラザ),市民活動センターが候補
 - 使用料・機能面から文化交流センターに決定.会場予約は1年前から可能なので申込みを行う.
 - 今年度の総会でおおまかな場所と日程を告知

2. 入退会者の承認及び2019年度会費の受取状況(財政)

【資料1】2. 入退会者の承認及び2019年度会費の受取状況

- ✓ 入会者0名,2019年度末退会者2名,同休会者0名,同会員特典停止16名,会員特典復活0名,

- 退会者を承認し特典停止会員への会費督促を順次行うことを確認
- ✓ 2019年度末会員数 260名
- ✓ 2019年度会費受取状況：支払義務のある会員 282名のうち 265名が支払い済み(会員の94%)
- ✓ 未納者は16名(会員特典停止者)+逝去した1名の17名
- ✓ 2020年年度会費は現時点で23名が支払い済み, 2021年度も1名が支払い済み
- ✓ 督促の経緯：2020年4月1日の49名への督促により18名が納入, 同7月1日の32名(うち1名は新入会員)への督促で14名が納入(新入会員を含めた50名に督促を行い34名が納入)
- ✓ 7月20日～27日の間に1名が納入(この1名は会誌送付先リストの追加提出で対応)
- ✓ 7月27日～31日の間に1名が納入(この1名には着払いで会誌35号を送付)
- ✓ 2020年度に入ってから2019年度会費を払った会員は特典復活するが35号は送らない方針
→会誌最新号を希望し送料を負担する人には適宜送ることに決定
- ✓ 2018年度末に会員特典が停止となった43名のうち, 復活した3名を除く40名は, 会則第11条2項により2019年度末に除名処分となる.

3. 2020年伊賀大会の開催について(行事)

【資料3】第37回歴史地震研究会伊賀大会 準備状況④

【資料4】第37回歴史地震研究会(伊賀大会)のお知らせ(第3報)

【資料5】歴史地震研究会伊賀大会の開催について(新型コロナウイルス関係)

【資料6】(参考)新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた『三重県指針』ver. 3(抜粋)

- ✓ 伊賀文化産業協会・伊賀上野観光協会への後援申請については6月中に申請予定であったが状況の変化に伴い現在申請を保留中
- ✓ 各種申込状況：公開講演会40名, 大会参加60名, 発表申込50件(口頭38件・ポスター12件・ほか1件), 要旨提出44件, 発表判断保留3件, 未提出3件, ほか1件, 懇親会33名, 巡検25名
- ✓ 第3報には感染症の状況により変更・中止の可能性がある旨を記載
- ✓ 地元への広報やメディアへのプレスリリースも保留中
- ✓ 中止の場合各所への報告, バス・ホテル等のキャンセルが必要
- ✓ 研究発表の代替案の検討が必要
- ✓ 現在第2波の最中であり三重県でも7月31日以降連日2桁を超える新規感染者が発生8月3日には県内で20名と1日の新規感染者数として過去最多を更新, 三重大学でのクラスターの発生も確認された
- ✓ 三重県知事は8月3日『緊急警戒宣言』を発令(不要不急の移動や来県を控える要請)
- ✓ 9月に延期開催を予定していた「忍者フェスタ」や10月開催の「天神祭」も中止が決定していることもあり住民感情も考慮したい
- ✓ 対応として下記の案が考えられる
 - 【第1案】すべてのプログラムを中止し, 研究発表会と総会のみリモートで実施(全員の参加が可能か?)
 - 【第2-1案】すべてのプログラムを中止し, 要旨集をもって研究発表会に代え, 総会は書面で開催
 - 【第2-2案】すべてのプログラムを中止し, 要旨集をもって研究発表会に代え, 総会は書面で開催するが要旨は発表1件につき2頁に拡充(要旨集の印刷送付の経費捻出が課題)

(意見)

- 第2案の場合, 要旨集を印刷する必要はなく, PDFの研究学会HPへの掲載で済ませられる(パスワードをかける事も可能)最終的には36号に要旨は掲載される(印刷される)
- 印刷する費用・参加者への送付など行事委員の負担が重すぎる
- 要旨集への掲載をもって発表したとみなす場合36号への論文投稿の際に質が確保されるか懸念される(既発表の場合は査読者1名で良いとされているため)
- 研究発表で質疑の時間を設け議論を行うことが重要
- 総会はオンライン参加できない人もいるので書面で良いのでは. メール等で投票を行いその結果を発表する形としてはどうか.
- オンライン発表が難しい発表者には要旨2頁拡充等の救済措置を行うことで対応してはどうか
- ポスターはPDFで作成してもらいそれをウェブに掲載することで対応できる
- 事前にパワポデータを提出してもらい開催側で操作する事も可能
- 発表申込み時にはオンライン開催の可能性を伝えていなかったため改めて発表形式の変更や取り下げのアンケートをとりプログラムを組み直す必要がある
- 伊賀での大会を再来年以降に開催できる場合, 公開講演会はその時のために温存しておけば良いのではないか(これはその時の市の協力体制にもよる)
- 巡検資料を予稿集もしくは会誌36号に掲載する等も検討したい

(決定事項)

- 第1案を採用することとし研究発表会は ZOOM を使用することで決定(新規の契約は不要)
- 公開講演会・懇親会・巡検の開催は難しいと判断し中止(公開講演会は現地で行われる事に意義がある点, 市民への公開を前提に行政から後援を得ている点を考慮し中止(再来年以降に伊賀で大会が開催される可能性を考え講師陣を温存))
- 要旨集は印刷せず PDF で作成し研究会 HP にアップロードする(参加登録者のみ閲覧可能とする)
- ポスターを事前に HP にアップロード(参加登録者のみ閲覧可能とする)
- 日程(26~28日)・プログラムは基本的にずらさず参加料は無料とする方針で行う
- オンライン開催に変更した旨を会員等に早々に告知する
- 発表者には発表成立条件などの必要事項を連絡する
- 発表形式の変更・取り下げ等のアンケートを発表者に行うことを決定
 - 選択肢: ZOOM での口頭発表・ポスター発表・要旨2枚・発表取下げ
- 発表形式の変更を反映させたプログラムを第4報に掲載する
- 宇佐美会員の特別講演についてはインターネット回線の状況, 面会が可能か等を考慮してできる範囲で対応することを決定(中止もあり)
 - ※後日, 感染が拡大している状況から録画も難しいと判断し来年以降に延期と決定
- 同時開催で進めていた伊賀上野城での展示は延期とする
- 総会は委任状(定足数以上)を集める形式で行う(会則には電磁的な方法でも可となっているため ZOOM の投票機能等を使用することを検討)

4. 総会の準備(総会資料案等)について(総務・財政)

【資料7】2019年度決算報告, 2020年度予算案他

【資料8】第37回総会資料(案)

- ✓ オンライン開催用に微修正が必要
- ✓ 議長の依頼と日程調整位を行う
- ✓ 詳細部分についてはメールにて追加修正作業を行い8月中旬頃までに原稿を確定する
- ✓ 決算については現在監査中のため確定次第原稿に反映させる
- ✓ 苫小牧大会については本日の幹事会で決定したことを予定として掲載する

5. 『歴史地震』の編集について(編集出版)

【資料9】5. 「歴史地震」の編集について

- ✓ 7月末に35号が無事発行され会員に送付された
- ✓ 7月末に編集出版委員会のウェブ会議を実施し反省点や改善点を議論した(査読のあり方等について)
- ✓ 11月末にも会議を開催し編集方針の確認を行う予定
- ✓ 前回から議題にしているように「報告」原稿の扱いについて編集規定の改定を行いたい
 - 文言等のチェックを後日メールで行うことを決定
- ✓ 次号以降の編集出版委員を増やすことを委員会内で検討中(建築分野が専門の人物など)
 - 決定次第報告する
- ✓ 近年会員数や論文の掲載数等が増加傾向にあるため編集出版委員会の作業の一部を外注したいと考えている
- ✓ 会員数300名程度の学会について年会費や会誌の編集に関する金額, 事務員の雇用状況などについて調査を行った
- ✓ 結論を急ぐわけではないが会費の値上げやページチャージ制の導入など持続可能な仕組みについて長期的な視点で探っていきたい

〈意見〉

- 編集作業を印刷業者に外注(版組み)しても委員の負担が減らない可能性がある
- 外注するよりも委員の増員やチェック要員を増やす方が負担軽減されるのではない
- 大幅な会費値上げを行うと会員数が減少する可能性も考えられる
- ページチャージを導入すると投稿数が減る可能性がある
- 若干の会費の値上げとページチャージ制導入の両方を行う方法もある(会員と投稿者の両方で負担)
- 外注した場合の見積もりをとってみる必要がある
 - 印刷業者に見積もりをとって次回以降示すこととする

6. 広報活動について(広報)

【資料10】(広報活動に関する報告)

- ✓ 研究会(会員)・musha メーリングリストの登録・変更を随時おこなっている(35号添付の案内による追加・修正)
- ✓ ホームページの更新: 伊賀大会第3報の掲載ほか
- ✓ 今後の作業: 17号のPDF掲載, 35号目次の掲載, 索引の更新

- ✓ masha の整理再登録
→masha よりも会員メーリスの整理の方を最優先に行う(最新名簿を財政から提供)
- ✓ 以前協力依頼のあった小学館の件は取下げとなった
- ✓ Masha 規約の改正は後日メールにてチェックする

○次回幹事会は9月8日17時～開催の予定 (Web 開催)

2020年度 第2回幹事会議事録

場所:Web 会議

日時:2020年9月8日(火) 17:00～20:00

出席者:松浦(会長), 堀川(副会長), 諸井(財政), 盆野(行事), 加納(広報), 行谷(編集出版), 中村(監査), 植竹(監査), 西村(次期行事), 大邑(総務)書記,

1. 2021年苦小牧大会について(新行事)

- ✓ 苦小牧アイビープラザを電話にて予約
- ✓ 1ヶ月以内に申込書の記入と支払いを行う予定(立て替え)
- ✓ 大会参加費は入場料発生とみなされる
- ✓ 公開講演会の内容について確認・検討
- ✓ 巡検案に関して検討

2. 入退会者の承認及び2020年度会費の受取状況(財政)

【資料2】2. 入退会者の承認及び2020年度会費の受取状況

- ✓ 入会者0名, 2020年度末退会者1名, 同休会者0名, 会員特典復活2名, 登録内容変更6名
→退会者を承認
- ✓ 現段階での会員数262名
- ✓ 2020年度会費受取状況178名(会員262名のうちの68%が支払い済み)
- ✓ 2019年度会費267名(会員282名のうち95%)
- ✓ 2019年度会費未納者15名
→会員情報が更新されていないので確認が必要

3. 2020年伊賀大会の開催について(行事)

【資料3】第37回歴史地震研究会(オンライン大会)プログラム(行事委員案)

- ✓ 会期4日間の予定を3日間に変更
- ✓ 開催方法変更につきプログラムを変更し参加者への連絡・確認などをおこなった
- ✓ 大会名称については行事委員にて決定することを確認
- ✓ 大会参加申込は現在64名
- ✓ 意向確認後の発表等申込43件(口頭30件, 拡張要旨4件, ポスター9件)発表取り下げ7件
- ✓ 講演要旨集は印刷せず大会HPに掲載
- ✓ 拡張要旨及びポスターは9/23を期限とする
- ✓ プログラム案は口頭発表7セッション, ポスターコアタイム2枠
→プログラムを検討
→座長については近日中に依頼
→発表・質問の方法については練習を設ける
→参加者数については最大接続数とする
- ✓ 2ページ要旨の会誌への掲載について
→基本的に1ページ要旨を掲載することとし報告などの形で掲載することも可とする
- ✓ 会場, バス会社等はキャンセルを手配(キャンセル料は発生せず)
- ✓ 講演会の講師, 後援団体には連絡済
- ✓ 以後は発表申込者へのプログラム, 発表方法をメールで周知(第4報で改めて告知)
→第4報案について検討
- ✓ Zoomの接続テスト(希望者)を実施
- ✓ 後援団体へ開催方法変更の報告を行う(プログラム確定後)
- ✓ 参加申込(会員)を締め切り集約する
- ✓ 企画展については2021年春に開催を延期

4. 編集規定の改定について(編集出版)

【資料4】編集規定の改定について〔相談〕

- ✓ 改定作業を進めていた編集規定について編集委員会内で了承が得られたため改定したい
→改訂が間に合えば総会で報告することとする

5. その他

- ✓ Mushaの規定について修正したもののチェックを行う
- ✓ 総会の開催方法について確認

○次回幹事会は10月23日17時～開催の予定（Web開催）

2020年度 第3回幹事会議事録

場所:Web会議

日時:2020年10月23日(金) 17:00～19:20

出席者:松浦(会長),堀川(副会長),諸井(財政),盆野(行事),加納(広報),行谷(編集出版),中村(監査),植竹(監査),西村(新行事),大邑(総務)書記,

1. 「歴史地震」の編集について（編集出版）

- ✓ 編集規定の変更について前回の会議で承認された。本日をもって改定日としたい。
- ✓ 改定部分や附則の表記方法などを確認し決定

2. 役員および委員名簿の確認（総務）

【資料1】2020年度役員名簿（案）

- ✓ 11月1日から就任予定の役員について確認
- ✓ 行事委員のメンバーについて候補者に意思を確認することを決定

3. 入退会者の承認及び2020年度会費の受取状況（財政）

【資料2】2. 入退会者の承認及び2020年度会費の受取状況

- ✓ 入会者2名,2020年度未退会者0名,同休会者0名,会員特典復活2名,登録内容変更2名
→入会者を承認
- ✓ 現段階での会員数266名
- ✓ 2020年度会費受取状況210名(会員266名のうちの79%が支払い済み)
- ✓ 未納者は会員の約2割(年末に会費督促を予定)
- ✓ 2019年度会費未納者12名は2020年度も未納

4. 学生会員制度の検討

- ✓ 現状でも会費は低めであり特に学生枠を設ける必要はないのではないかと
- ✓ 会誌の実費(2000円)および会費徴収の複雑化を考えると現実的でない
- ✓ 学生を積極的に入会させるという研究会の意思表示にはなる
→学生会員制度は設けないことに決定
→高校生等の入会についてはその都度幹事会で判断することに決定

5. 2020年オンライン伊賀大会のまとめ（行事）

【資料3】2020年オンライン伊賀大会のまとめ（事業報告）

- ✓ 資料にもとづき概要を報告
- ✓ 参加者103名(うち会員96名,非会員5名,招待者2名)
- ✓ 発表者43名(うち口頭発表30名,ポスター発表9名,要旨発表4名)
- ✓ 収支はオンライン開催のためなし(キャンセル料発生なし)
- ✓ 感染拡大等により日程、プログラム、開催方法、大会名称等を変更した。
- ✓ 財政からの報告は収支が発生しなかったためなし
- ✓ 大会参加記はオンライン大会の経験記録として残すことを決定
→行事から候補者に依頼し調整

6. 2021年苦小牧大会について（新行事）

【資料4】第38回歴史地震研究会苦小牧大会の準備状況

- ✓ 2021年9月2日(木)～5日(日)に開催を予定
- ✓ 会場としてアイビー・プラザを予約し払込(許可証・使用料の領収書を確認)

- ✓ 備品・設備等の状況を確認
- ✓ 市民講演会テーマの希望としては一般的な「防災」より「しくみ」や地域および最近の話題を希望
- ✓ 巡検コースは津波堆積物、緩斜面での地すべり等を考えている
→地震学会ニュースレターに広報できるよう調整
→市民講演会の講演者については調整

7. 2022年大会の候補地(高槻)について(総務)

【資料5】2022年度第39回高槻大会(案)について

- ✓ 阿武山観測所、継体天皇陵などを巡検する案を紹介
- ✓ 伊賀での現地開催を再検討 →難しいと思われる
→2022年度は高槻で開催する方向で進めることを決定

8. 後援申請の規定・様式などについて

【資料6】後援名義使用の承認基準(案)

- ✓ 鹿児島大からの後援申請について →研究会として後援する事を決定
- ✓ 規定と様式の案について説明

9. 広報活動について(広報)

- ✓ メーリングリストの情報の更新
- ✓ 原稿募集の案内をHPに掲載する
- ✓ 35号のHPへのアップ
- ✓ メーリングリスト更新用のフォームを作成する
→会員の現況確認(所属・住所等)を年度内に行う

10. その他

- ✓ 行事委員長について業務引き継ぎをおこなう

○次回幹事会は12月25日17時～開催の予定 (Web開催)

2020年度 第4回幹事会議事録

場所:Web会議

日時:2020年12月25日(金) 17:00～19:20

出席者:松浦(会長), 堀川(副会長), 諸井(財政), 西村(行事), 加納(広報), 行谷(編集出版), 中村(監査), 植竹(監査), 大邑(総務)書記

1. 「歴史地震」の編集について(編集出版)

【資料1】『歴史地震』の編集について

- ✓ 36号の編集状況について投稿数等については昨年とおおよそ変わらない状況
- ✓ 現在、すべての原稿について査読者に回っている状況
- ✓ 1月上旬に査読意見収集、1月末に著者からリバイスの予定
- ✓ 再査読は3月下旬を目処にして3月末で受理あるいは受理の見込みに至らなかった場合は却下か次年度に回す方針
- ✓ 編集出版委員会をオンラインで開催し、却下の判断、査読締切りが守られない場合の対応について編集方針の確認を行った
→実際に却下の判断をする場合については場合に応じて慎重かつ柔軟に対応する事を確認
- ✓ 今後1月下旬、3月上旬に編集の進捗を確認し、必要に応じてオンライン会議を実施の予定
- ✓ 前回と同じく編集補助者への謝金を支払いたい
→支払うことを了承
- ✓ オープンアクセスリポジトリ推進協会の著作権についてのアンケート調査に回答するにあたり研究会のメールアドレス、回答内容等について確認

2. 入退会者の承認及び2020年度会費の受取状況(財政)

【資料2】入退会者の承認及び2020年度会費の受取状況

- ✓ 入会者0名, 2020年度末退会者1名, 同休会者0名, 会員特典復活0名, 登録内容変更0名
- ✓ 2020年度会費未納につき退会届保留中1名
- ✓ 現段階での会員数266名

- ✓ 2020 年度会費受取状況 220 名（会員 266 名のうちの 83%が支払い済み）
- ✓ 未納者 46 名（年明けに会費督促を予定）

3. 2021 年苦小牧大会について（新行事）

【資料 3】2021 年苦小牧大会準備状況

- ✓ 講演者の候補について交渉状況を報告
- ✓ 外部者へ講演依頼をする場合について謝金などを確認
- ✓ 全体タイトルについてはこれから検討
- ✓ 感染症およびワクチン接種の状況に応じて適宜対応（巡見は無理になるかもしれないが講演会の開催は可能ではないか）
- ✓ 巡検コースは地質・火山系を検討中
- ✓ 大会セットについて前行事委員長より受領

4. 広報活動について（広報）

- ✓ 通常の広報活動を実施している
- ✓ メーリングリスト規約については確認中
- ✓ 今後ホームページに 35 号を PDF 掲載する（17 号も掲載予定）
- ✓ 会員の現況確認をフォームなどで逐次行う
- ✓ musha の整理・再登録を 4 月目処に行う
- ✓ 地震学会ニュースレター 3 月号に苦小牧大会の情報を掲載する

5. その他

- ✓ 研究会に要望書の提出依頼があったため検討した
- ✓ 後援申請の規定（内規）について幹事会決定で作成できる事を確認
→次回幹事会で決定する予定

○次回幹事会は 4 月開催の予定（Web 開催）

2020 年度 第 4 回幹事会議事録

場所:Web 会議

日時:2021 年 4 月 27 日（火） 17:00～19:00

出席者:松浦(会長), 堀川(副会長), 諸井(財政), 西村(行事), 加納(広報), 行谷(編集出版), 植竹(監査), 大邑(総務)
書記

1. 入退会者の承認及び 2020 年度会費の受取状況（財政）

【資料 1】入退会者の承認及び 2020 年度会費の受取状況

- ✓ 入会者 1 名, 2020 年度休会者 1 名（2020 年度末に自動的に退会とする）, 2020 年度末休会者 0 名, 2020 年度会員特典復活 1 名, 登録内容変更 4 名
- ✓ 現段階での会員数 267 名
- ✓ 2020 年度会費受取状況 248 名（会員 266 名のうちの 93%が支払い済み）
- ✓ 未納者 19 名（6 月末に会費督促を予定）2021 年度会費 7 名
- ✓ 2019 年度未納者 11 名（会員特典停止者：上記未納者 19 名とは別, 現在会員数にはカウントせず）

2. 「歴史地震」の編集について（編集出版）

【資料 2】『歴史地震』の編集について

- ✓ 会誌バックナンバーの在庫整理（会員への特別無料配布）について報告
 - ・希望者が空のレターパックを送りそれに詰める方法で希望者に配布した
 - ・9名の希望者があり 8 名に計 70 冊を配布（1 名が会費未納であったため会費督促をしたが反応がなかったため配布せず）
 - ・各号保管分が最大 20 冊になるよう産総研から地震研へ 130 部程度を送付し総務が保管（送料は歴史地震研究会負担）
 - ・残りの 240 部は保管不能につき廃棄
- ✓ 『歴史地震』第 36 号について
 - ・現在 36 号の総ページ数は受理されたもので 221 ページの予定（受理できていない原稿 80 ページ相当を合算すると 300 ページ程度が見込まれる）
 - ・現在受理された順に著者校正をおこなっており未受理のものは 4 月末をタイムリミットとする

- ・ 5月下旬に著者校正を終了, 6月上旬に講演要旨の著者校正を終了, 6月21日に入稿予定, 6月下旬～7月上旬でゲラチェック, 7月末発送
- ・ 前田印刷の見積もりは税込み 764,038 円
- ・ 宛先不明等で戻ってきた分について再送付する費用が必要
- ・ 昨年の発行部数は 450 部であったが現在 35 部が残っている
- ・ 発行部数は 7 月 13 日までに確定, 送付リストは 7 月 22 日までに確定する必要があり, それまでに会費督促などを行っておきたい
 - 7 月 19 日(月)までに会員送付リスト, 図書館等送付先リストを確定することを確認
 - 発行部数計算: 会員送付 260+図書館 125+新入会員 10(見込み)+保管 35
 - 上記 430 部+著者希望分(現時点では不明)で決定することを確認
- ・ 7 月 19 日以降に会費を払った会員(前田印刷から送付できない分)について送料を会の経費から出すのか着払いにするのか
 - 会則には会費は「各年度始めに納入しなければならない」「遅滞なく会費を納めている会員は, 次の特典を有する」とあるので, 自己負担になっても仕方ないのではないかと
 - 会費督促で会誌の送付について言及することを決定
 - 次の総会で会則に会費納入の期日について明記する変更を行う必要がある(6 月末までに会費納入していない場合は会誌を送ることができない等)
- ・ 会費払込票の前田印刷への引き渡し方法について確認
- ・ 著者希望分の会誌送付方法について, 挨拶文や梱包にかかる費用の面から, 前田印刷からの送付ではなく今まで通り総務から希望者に送る方法(バックナンバーと同じ)をとることを確認

3. 2021 年 苦小牧大会について (行事)

【資料 3】2021 年 苦小牧大会 準備状況

- ✓ 発表申し込みを開始, 現在 1 件あり(締め切りは 5 月末)
- ✓ 講演会について厚真町教育委員会の方(考古学)にお願いすることを決定
- ✓ 演者については感染症の状況等を見て今後調整
- ✓ 講演会については苦小牧の広報などで発信してくれるとのこと
- ✓ 巡検案について PowerPoint で説明(場所, 内容, 食事, 時間, 見学許可, 雨天時, 人数制限ほか)
 - 雨天の場合は行けない場所もある事を事前に明記することを確認
 - ワクチン接種進捗状況で参加申し込みが少ない可能性あり
 - 巡検および講演会の詳細はプログラム決定後の第 2 報に掲載の方向
- ✓ オンライン開催等の検討は必要なのか → 判断はまだ保留
- ✓ 懇親会は実施しない方向で検討
- ✓ 公開講演会は地元の人のみであれば開催可能(講師も地元の方でまとめた方が実施しやすい)
- ✓ 研究大会の件だけでも幹事会をこまめに開催してもよい

4. 功績賞について

- ✓ 昨年と同様に今年度も感染症拡大の影響による大会開催の流動性を考慮し選考なしとすることを確認

5. 広報活動について (広報)

- ✓ 前回からの作業について説明(musha メーリングリストの登録, 大会第 1 報の掲載, 17 号の掲載, 地震学会ニュースレター 3 月号への苦小牧大会案内掲載)
- ✓ 今後の作業について説明(35 号の掲載, 地震学会ニュースレター 7 月号への大会案内投稿, musha の整理・再登録フォームを周知)
 - musha の整理の前に名簿を整理・確認

6. その他

- ✓ 外部からの推薦依頼等があった場合の会員への周知方法について検討
- ✓ 「3.11 を災害伝承の日」に制定する動きについて経過報告

○次回幹事会は 6 月開催の予定 (Web 開催)

4. 第 38 回 歴史地震研究会 (2021 年 9 月 2～5 日, 苦小牧大会) 関係

第 38 回 歴史地震研究会 申し込み案内

第 38 回 歴史地震研究会 (苦小牧大会) のお知らせ (第 1 報)

歴史地震研究会では、以下の日程で第38回歴史地震研究会(苦小牧大会)を開催することになりました。講演申し込みの締め切りは5月31日(月)、懇親会・巡検の参加申し込みの締め切りは7月31日(土)です。

1. 場所

苦小牧市文化交流センター アイビー・プラザ
苦小牧市本町1丁目6番1号 <https://ivyplaza.roukyou.gr.jp/>

2. 日程および参加費

2021年9月2日(木)～5日(日)の4日間

2日:研究会(午後)

3日:研究会・総会・懇親会

4日:研究会・公開講演会(午後)

5日:巡検

- ・公開講演会は無料です(会員、非会員とも)
- ・研究発表会は大会参加費として会員 2,000 円、非会員 4,000 円を徴収する予定です
- ・懇親会(会費 6,000 円程度)は苦小牧市内のホテルで開催します
- ・巡検の参加費は 6,000 円程度の予定です(昼食・保険含)

3. 公開講演会

テーマ(予定):胆振東部地震から3年～古文書と地層から古地震をさぐる～
講師(予定):北原糸子氏、鏡味洋史氏、乾哲也氏、西村裕一氏

4. 巡検

行き先(予定):胆振東部地震の地滑り痕跡、胆振東部地震の液状化痕跡、樽前山の歴史噴火堆積物、17世紀の津波堆積物、勇武津資料館、など。
定員:40名程度

5. 講演申し込み

発表者(共同研究の場合は全員の名前と発表者名)・題名・発表形式(口頭・ポスター・どちらでもよい、のいずれか)を明記の上、5月31日(月)までに行事委員会あてに電子メール・手紙のいずれかでお申し込みください。

講演申し込み先

- ・Webフォームの場合:<https://forms.gle/j4ZrR2fXK57CXMfq8>
- ・電子メールの場合:rekishi2021@histeq.jp
第38回歴史地震研究会行事委員会
西村裕一(委員長)、盆野行輝、室谷智子、小松原琢、大邑潤三、高清水康博
- ・手紙の場合
〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学 地震研究所 1-612
歴史地震研究会行事委員会 大邑潤三 宛

6. 公開講演会・懇親会・巡検等の参加申し込み

- ・公開講演会の事前申し込みは不要です。当日先着順(定員200名)です
- ・懇親会・巡検の参加申し込みは7月31日(土)までに、発表申し込みと同じく、行事委員会あてに電子メール・手紙のいずれかでお申し込みください
- ・巡検の参加申し込みにあたっては、保険加入のため、氏名のほかに住所・生年月日・電話番号(携帯可)を後日お問い合わせします
- ・巡検の参加受けは、会員及び研究発表会参加者を優先します

7. その他

- ・発表形式はご意向に添えない場合があります。
- ・ホテル等宿泊につきましては、各自でご予約ください。会場周辺のホテルには収容人員に限りがありますので、早めのご予約をお勧めします。
- ・各種お問い合わせは上記講演申し込み先へご連絡ください。
- ・大会の情報はホームページ上で随時更新いたします。<http://www.histeq.jp/kenkyukai.html>

5. 各種お知らせ・資料

『歴史地震』原稿募集のお知らせ

会誌『歴史地震』では、通年、投稿を受け付けておりますが、2022年7月末発行予定の次号(第37号)に掲載希望の方は、2021年11月30日必着でご投稿をお願いいたします。なお、投稿を受付済みで未掲載の記事は、次号への掲載希望として取り扱っております。

1. 募集原稿の内容

『歴史地震』は、歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成し、記事の種別として、論説、資料、講演要旨、報告、紹介を取り扱います。頁数の上限は、論説と資料は20頁、講演要旨は1頁、報告と紹介は4頁ですが、超過が認められる場合もあります。編集出版委員会では、第37号を次の記事を中心に構成する方針です。

- (1) 2021年9月の第38回歴史地震研究会での発表内容に関連する記事
- (2) 昨年までの研究会で発表された内容、あるいはそのほかのオリジナルな内容に関する記事
- (3) 2021年9月の第38回歴史地震研究会の講演要旨集に掲載された講演要旨

これらのうち、(1)、(2)の投稿をお待ちしています。

2. 編集体制と編集方針

『歴史地震』は以下の編集体制・方針を取っております。

- (1) 編集出版委員会で編集作業を進めます。
- (2) 論説および資料については、査読制を取り入れていますので、基準を満たさない記事は掲載できません。少なくとも1名の査読者が原稿を読んで意見を著者にフィードバックし、不備を指摘・訂正していただきます。
- (3) 原稿を作成する標準的な体裁『歴史地震』の標準書式』を定めています。最新の標準書式に従ったWordファイルが歴史地震研究会のウェブサイト(<http://www.histeq.jp/kaishi.html>)からダウンロードできますので、このファイルを書き換える形で原稿を準備されることをお奨めします。
- (4) 電子ファイルでの投稿を奨励します。少なくとも本文は電子ファイル(フロッピーディスク等あるいはメール)で投稿していただくと、編集作業が効率的に行えますので、ご協力をお願いいたします。
- (5) 「投稿シート」(次頁に記載)に必要事項をご記入のうえ、このシートとともにご投稿ください。最新の様式の「投稿シート」は上記ウェブサイトからもダウンロードできます。
- (6) 最終原稿は、印刷物としての『歴史地震』のほか、PDF版が歴史地震研究会のウェブサイトでオンラインジャーナルとしても一般に公開されます。原則として、印刷物はモノクロで刊行します。
- (7) 掲載料の頁単価は、モノクロページが1,500円程度、口絵のカラーページが23,000円程度です。ただし、投稿者が会員の場合は、1.に示した頁数までのモノクロページについては、無料です。
- (8) その他詳細は、編集規定をご覧ください。

3. 投稿先

・電子メールでご投稿の場合：histeq@histeq.jp

※ 添付ファイルが5MB以上の大きさになる場合には、CD-RまたはUSBメモリに入れてご郵送ください。

※ 原稿を受領した場合は、必ずその旨の返信をしております。一週間以上経過しても受領の連絡がない場合には、何らかの原因でファイルを受け取ることができていない可能性がありますので、お手数ですが、上記アドレスまで再度お問い合わせください。

・郵送でご投稿の場合：〒101-0064 千代田区神田猿樂町1-5-18 千代田ビル8F

地震予知総合研究振興会内歴史地震研究会編集出版委員会 宛

※ 郵送で投稿する場合は、確認のため、上記アドレスにも連絡して下さい。

・ご投稿の際には、忘れずに「投稿シート」をご提出ください。

『歴史地震』 投稿シート

ver.202006

<基本情報>

記事の種類	論説・資料・報告・紹介 ※ 論説および資料の場合は、査読の対象となります。	
記事タイトル		
著者		
投稿者(連絡責任者)	氏名	
	所属	
	郵便番号・住所	〒
	電話番号	
	電子メールアドレス	

<質問・チェック事項>

記事について

(1) 記事の内容は過去の歴史地震研究会で発表した内容ですか？	はい・いいえ
・「はい」の場合、発表年・開催場所・発表番号(O-12 など)をご記入ください	
※ 発表済の場合は、編集出版委員会の判断で、通常2名以上の査読者を1名とすることがあります(論説、資料の場合)。	

体裁・形式について

(3) 原稿は、歴史地震研究会ウェブサイトからダウンロードした標準書式のWord ファイルを書き換えて作成したものですか？	はい・いいえ
<p>・「いいえ」の場合、以下の標準書式に従っていることを十分に確認してください。標準書式からのずれが大きい原稿は、編集出版作業に手間がかかりすぎるため、受け付けられないことがあります。</p> <p><input type="checkbox"/> A4 サイズ, 左右の余白各2cm, 上下の余白各2.5cm</p> <p><input type="checkbox"/> フォントは和文が明朝体, 英文がTimes</p> <p><input type="checkbox"/> 文字サイズは, 和文タイトル16 pt , 英文タイトル12pt, 所属・著者名10.5pt, 英文要旨10.5pt.</p> <p><input type="checkbox"/> 著者の連絡先は和文の所属に脚注として加える。</p> <p><input type="checkbox"/> キーワードは英文要旨の次の行に Keywords: xxxx, www, zzz. のように記入する。</p> <p><input type="checkbox"/> キーワードの下でセクションを切り替え, 本文は2 段組とする。段の横幅は8cm, 段の間は7mm 程度, 1 行22 文字, 1 ページ45 行とする。</p> <p><input type="checkbox"/> 本文の文字サイズはすべて10.5pt .</p>	
(4) 記事の種類が「論説」あるいは「資料」の場合、英文の表題, 英文の著者名・所属, 英文要旨(200 語程度), 英文キーワードを備えていますか？	はい・いいえ・該当しない
(5) 句読点は「, 」と「. 」で統一されていますか？ ※ されていない場合は検索・置換ツールを使って統一してください	はい・いいえ

(6) 本文中で和暦と西暦が混同されるおそれはないですか？ ※ 歴史地震研究会では、混同を避けるため、和暦には漢数字(宝永四年十月四日など)、西暦にはアラビア数字(1707年10月28日など)を使うことを推奨しています。	ない・ある
(7) 西暦1582年以前の西暦は(グレゴリオ暦ではなく)ユリウス暦を用いていますか？	はい・いいえ・該当しない
・「いいえ」の場合、使っている暦の種類が明記されていますか？	はい・いいえ

図・写真について

(8) 既公表の文献(自分で公表したものも含む)や機関・個人が所蔵している史料から転載した図や写真はありますか？	はい・いいえ
・「はい」の場合、出版社・学会や機関、個人に転載許可をとっていますか？	はい・いいえ
(9) 製本(印刷)版でカラー図・写真の掲載を希望しますか？	はい・検討中・いいえ
・「はい」もしくは「検討中」の場合、希望する図・写真の番号をご記入ください	
<p>※ カラー図を希望された場合、本文中にはモノクロの図が掲載され、そのカラー版が口絵として巻頭に再掲される格好となります。モノクロとカラーで図の内容・サイズを変更することはできません。なお、カラー頁料金が追加の掲載料が発生します。</p> <p>※ 歴史地震研究会ウェブサイトで公開されるオンラインジャーナル(PDF版)では、希望の有無に関わらず、フルカラーとなります。</p>	
(10) カラー掲載しない図について、モノクロ印刷に必要な情報が判読・識別可能ですか？	はい・いいえ・図はない